

## 日本あちこち河川遡行記(第244回)

京都 1-2-2.鴨川(その4) 前半 平成30年6月9日(土) 晴

鴨川4日目の遡行にこだまの乗継で京都駅に着く。地下鉄は先日ほどでは無いが乗客が多い。大阪の御堂筋線ほどでは無いが乗りが良い。6両編成であるが8両化の検討を要するころだな。

北大路駅から地表に出て交差点の南東角近くのバス停に向かうと20名程度のハイキングスタイルの中高年のグループがバス停に並んでいる。これから乗る雲ヶ畑岩屋行き「もくもく号」は10名ほどの定員のワゴン車なので乗り切れないぞ。発車5分前の8時35分に「もくもく号」が到着。当方はこれに乗らないと今日の計画が減茶苦茶になるので事情を話して運転席横に乗せてもらう。このコミバスは「雲ヶ畑自治会」が運営し、車とドライバーは地元最大タクシーの「ヤサカタクシー」が提供しているようだ。ドライバー氏は携帯でタクシーの増車を要請し、乗車予定の人にチケットを配布している。休日はこれが当たり前なのかも知れないがコミバスでタクシーの増車とはビックリである途中のバス停の2カ所でも乗客がいるのでその都度電話と券の配布をしている。「京都バス」さん！復帰しませんか？。

9時20分、10分の遅れで終点の「雲ヶ畑岩屋橋」に着く。橋名がバス停名になっているぞ。



### 01. 「もくもく号」の終点雲ヶ畑岩屋橋にとうちゃこ

川は橋の先で二又に分かれ、右側からは「祖父谷川」が「棧敷ヶ岳(H=895m)」東から流れ、左側からは「雲ヶ畑岩屋川」が「薬師峠」から流れ合流している。合流点から下の「中津川」との合流点までの川名は地形図にも橋の橋名板にも記載されていないので勝手に「鴨川(賀茂川)」としておく。



02.岩屋橋 BS の観光案内地図に、



03.右に行けば棧敷ヶ岳 (H=895m)

左は岩屋不動尊

狭い溪谷の杉の森の間の県道を下って行く。時折自転車が横を速度を落とさずにベルを鳴らさずに通過して行く。車とバイクは音がするので良いが、自転車は音も無く 40km ほどの速度で脇をいきなり通過して行く。免許のいないライダーの横暴さが際立つ。

数少ない民家の中に家紋入りの入母屋の家が建っている。杉林の間に監視用の防犯テレビカメラが設置されている。雲ヶ畑自治会は凄いなー。



04.家紋入りの入母屋の民家が



05.こんな所にも防犯テレビカメラが有るんだ

苔むした「白梅橋」に来ると親柱には「昭和 6 年」架設の銘板が嵌められている。戦前派が未だ健在だ。





06.昭和6年架設の銘板が

平地が少ない谷間の猫の額に田植えの終わった田圃が有る。この辺りは鴨川の源流部でかつての御所の横を流れており、鴨川を汚さないように生活してきたと言われている。平地の少ない谷間では林業が生活の糧である。川は急流で大きな用材を筏に組んで京に流すのが無理なので、大きくない木を伐採しここで加工した物を京に運んだのだろう。丁度その製材所が在ったのでカシャ。皮を剥がした細い丸太が並んでいる。磨き丸太かな？



07.猫の額の平地に田圃が



08.名産の細い皮むき杉丸太が

「中畑」地区に来ると「巖島神社」の石段が県道と平行している。山の傾斜がきついのでこのような位置に神社が出来たのだろう。京の中心部から30分で深山幽谷の地になっている。地形図を見ると、山の高さは余り高くないが狭い溪谷が至る所に有り、四国の阿波、土佐にも負けない秘境の姿である。

向かい側には「もくもく号」を運営している自治会の建物が有る。100以上のコミバスに乗ってきたが市町村でなく自治会がバスを運行しているのは此処だけである。



09.道と平行に石段が続く神社



10.もくもく号を運行する自治会の本拠だ

地元の婦人が二人ござっしやるのでバスのことを聞く。もくもく号の名前の謂われを聞くと、「名前の公募が有り、子供の案が採用された。地域名の雲ヶ畑の雲から、雲のイメージでモクモクとし、字は応募した4名の子供が1字ずつ書いたんですよ（写真-01.参照）」。

少し下ると今度はお寺の「高雲寺」の石段が現れる。左には酒飲みは立入禁止の石柱が、右には銭形の大きな石碑が迎えてくれる。今日は寺社巡りはパスして路を急ぐ。



11.「高雲寺」の入口には大きな石の銭が

[ 続く ]

